

## 9. ニューロリハビリテーションフォーラム

2015年7月25日にニューロリハビリテーションフォーラムを開催しました。このフォーラムは、症例が呈する実際の症状について、それを神経科学に基づきどのように捉え、そしてどのようにクリニカルリーズニングしていくか、ニューロリハビリテーションセミナーの講師陣と臨床現場で活躍しているセラピストと議論しながら模索していくという試みです。

### ■ プログラム

#### 1. 高次脳機能学部門：失行に対するニューロリハビリテーション

Opening 森岡 周，松尾 篤

症例呈示 信迫悟志（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）

ディスカッション 全員

Closing 森岡 周，松尾 篤

#### 2. 身体運動制御学部門：脳卒中後の歩行障害に対する

ニューロリハビリテーション

Opening 冷水 誠，岡田洋平

症例呈示 瀧上健（岸和田盈進会病院）

ディスカッション 全員

Closing 冷水 誠，岡田洋平

① 高次脳機能学部門：「失行に対するニューロリハビリテーション」

信迫悟志

高次脳機能学部門からは、失行症の症例呈示を信迫悟志特任助教が行った。オープニングとして松尾篤教授から失行についての説明および失行発現に関わる神経ネットワークが説明され、失行での臨床試験が少なくエビデンスが不足していることが指摘されました。クロージングでは、森岡周教授より失行の病態を細分化して評価すること、またインパクトに関する調査の必要性が示された。症例呈示に関しては、フロアから症例に関する質問、評価に関するアドバイスも多く、活発な意見交換が行われた。また発表後にも、提示された症例や失行に関する神経科学的知見やリハビリテーションについてのディスカッションが行われた。



② 身体運動制御学部門：脳卒中後の歩行障害に対するニューロリハビリテーション

湧上 健

身体運動制御学部門からは、湧上健氏より脳卒中後歩行障害の症例呈示が行われた。オープニングでは岡田洋平助教より歩行障害に関する神経基盤、歩行障害からの回復に関する神経機構、そして有効性が報告されているリハビリテーションについて紹介があった。湧上氏による症例呈示では、病期により優先順位が刻々と変化していく中で、その問題を的確に捉えていく手続き、そしてその回復に関するニューロリハビリテーション技術の適用と検証が示された。時間の関係で、プレゼン中のディスカッションは制限されたが、終了後にも多くの方が残ってディスカッションされており、有意義な症例呈示となった。またクロージングでは、冷水准教授より歩行に関する神経科学的知見を臨床に応用していく困難さが示されると同時に、歩行障害例に対して神経科学的知見を適用し、科学的根拠に基づき、思慮深く治療を選択していくことの重要性が示された。